

## バイバイ原発 310 きょうと主催者挨拶 坂本真由美

今日は、各地から、それぞれの想いを持って、大勢の方々が集まっています。年齢、仕事、立場、ジェンダー、心身の状態、動機などはひとり一人違いますが、「原発いらない」その一点を共通の願い、目的として、私たちは、ここにいます。

再会、または新しい出会いが生まれ、たくさんの想いが集まっているこの場は、とても大切な意思表示、発信の源です。日々の地道な活動へのエネルギーを生み出します。

2月23日開催の関連企画、「線量計が鳴る」でも、知ってほしいこと、伝えたいことを、朗読劇という形にし、リュックを背負って一人、全国各地を飛び回る、79歳中村敦夫さんから、それぞれの立場で活動、表現することの大切さとパワーを受け取りました。

さて、東京電力福島第一原発の事故は今も収束せず、放射能拡散は続いています。食品中の放射性セシウムの基準は一般食品 100 Bq、乳児用食品 50 Bqと、2012年から変わっていません。外国各地から日本の食品の輸入が規制、禁止されている事実も知ることが必要です。原発の海外輸出の道がほとんど閉ざされたことは幸いですが、原発なしでも電力は足りていることが明らかなのに、ここから約 60km にある大飯原発、高浜原発は今この時も動いています。40年を超す老朽原発も再稼働させようという動きがあります。

そして、復興庁の発表では避難生活者は約5万4千人。自主避難者を「避難者」と計上しないなどのデータ操作もあり、実態全体が分かりづらくされています。原発事故によって人の暮らし、命におきたこと、今も続いていること、被害の実情を、社会全体が見つめることすら、できていないまま、東京オリンピック、大阪万博が開催されようとしています。

ここ京都には、たくさんの方々が、各国から旅行に訪れていています。日本で起きていることを充分には知らずに来ている人も多いのではないのでしょうか。今日はチャンスです。後半のデモでは、京都のメインストリートで「原発いらない」との市民の想いを、現状を、私たちが世界に発信しましょう。